

日本学術会議 課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会
人材育成・国際ネットワーク分科会（第2回） 議事要旨 文責：中埜

日 時：平成22年7月12日（水） 17:15～18:15

場 所：日本学術会議5階 5-B 会議室

出席者：（委 員）大町、中埜（親委員会委員）濱田（小委員会委員）古川

（参考人）田中

（欠 席）小谷、斉藤、今村

提出資料

2-1 資料「日本の国際防災協力について（河原）」に即したコメント等（古川）

2-2 人材育成・国際ネットワーク分科会メモ（大町）

2-3 人材育成・国際ネットワーク分科会メモ（小谷）

2-4 人材育成メモ（斉藤）

2-5 人材育成・国際ネットワーク分科会 議論の進め方（案）（中埜）

議事内容

1. 前回議事録確認

2. 提出資料に対する意見交換

資料2-1（古川）

- ・ global → 二国間 → regional のとらえ方が重要（チリ地震ではペルーJICA-JST プログラムメンバーが被害調査した事例やメキシコがサポートした事例がある）.
- ・ サイエンス（地震学，津波）やエンジニアリング（耐震工学）は研修教育プログラムとして general に成立しうる.
- ・ 国地研修以外の情報（いろいろな機関で研修がなされているが...）も含め，情報の集約（あるいは一步踏み込んで，これを担う情報プラットフォームの創設）により全体像を把握する必要がある．
⇒ どう活かすか（e. g. 独自性のある中核機関につながらないか）
- ・ 日本での研修生の満足度・課題を研修生自身から情報収集できると良い．
⇒ 建研でアンケートを実施中．ぜひ本分科会にも input ほしい（特に「課題」およびこれに関連する「事例」，「理由」がわかると良い）.
- ・ ネットワークは事項（災害種別）ごとに整備されていることが重要.

資料2-2（大町）

- ・ インパクトの強い自然災害防止につながるキャンペーンを提案してはどうか．特に「子供」をターゲットとしたテーマ設定は可能性が高いのではないか（日本政府の少子化対策とのタイアップなど）.
- e. g. 「自然災害から世界の子供たちを守る」キャンペーン
「子供防災サミット」
- ・ 防災教育については，文科省も国内向けに資金提供しているが，継続的であると良い．一方で，対象国に渡しただけではその地域に根付くシステムが無い．

- ・国際ネットワーク：人的のみならず情報／DB ネットワークの全体像がつかみ難い（防災科研等でも実施している／していたが、全体像は外部からは見え難い）
⇒情報共有のためのプラットフォームの重要性
- ・若手専門家を attractive にひきつけ育成するイベントの提案（催し物／表彰）
- ・防災教育を海外においても継続的に行う教材が重要（「稲村の火」は多数の外国語に翻訳されているがその実態（使われ方など）は必ずしもよく把握できていない）.
- ・自然の兆候を見て実行動に結び付けられるような「賢い人」を育てる必要がある.

資料 2-3（小谷），2-4（斉藤），2-5（中埜）

- ・隠し味として国益，presence を提言に含める（国内向け／国外向けで使い分けも必要である）のが良い.
- ・若手の国際化の促進方策が不十分．海外への情報発信の準備ができていない（人的資源の充実／英文資料の充実）.
- ・数は少ないが防災教育に興味を持っている学生もあり，これらを継続的に派遣できるような促進策が必要（現状は資金難で継続が難しい：資金援助は重要であり予算の確保が重要）
- ・follow-up がなされていないのでこれの促進.
- ・国内での実践が国外での活動に直接的に役立つことが重要（長期持続のための秘訣のひとつ）．一方でインドネシアの例のように，津波 Early Warning システムではドイツ仕様のシステムであるためにいろいろ問題が生じている事例もあり，バランスが重要である.
- ・防災教育カリキュラムの工夫と具体化（日本ではなかなか「前進」しない．省間の縦割りのみならず省内での縦割り解消／調整不足の克服：まずは国内（学校）で防災教育を推進できないのであれば海外への展開は困難である）.

3. その他の議論

- ・メンバーは適宜増強してよい（候補者として，重川氏（富士常葉），岡田氏（防災科研）ほかの名前が挙がった）

4. 次回までの宿題

- ・前回同様，合同会議の講演資料（特に ICHARM のプレゼン）を見直し、人材育成と国際ネットワークの観点から、参考になる点、補足する点、批判等、をまとめた簡単な（ではあるが具体的で提言的内容をして意識可能な）メモを各自作成する.
- ・人材ネットワークや研修プログラムの共通プラットフォーム作り（それぞれが活動しているのであるからばらばらでよいという意見もあるが，一方で本当にそれでよいのかという意見もある）を想定した具体策についてのアイデア，コメントを提示する.
- ・その他
（※将来的には研修生へのアンケート結果はぜひ内容を提示されたい.）

5. 次回日程（予定）

- ・8／6の全体会後に開催（予定）

以上